



「さぬきうどん未来遺産プロジェクト」趣意書

1990年代に始まった空前の讃岐うどんブームを期に、「讃岐うどん」は一つの歴史的な隆盛期を迎えています。このブームの中で、「讃岐うどんとは何か？」という、大げさに言えば讃岐うどんのアイデンティティのようなものに対する問いが、しばしば投げかけられるようになりました。

香川県民の中で、讃岐うどんはどういう存在として生まれ、どう育まれてきたのか？改めて資料や文献等を紐解いてみると、実は「平安時代に空海が中国からうどんの原型を持ち帰った」という伝説や「江戸時代のこんぴら参道を描いた屏風絵にうどん屋風の店が見られる」という古い推測資料などに加えて、数少ない先人や研究者による讃岐うどんに関する著述文献が残っているのみで、この大きな讃岐うどんブームの中にあって、讃岐うどんの過去情報が極めて少ないことに気づかされました。

では、讃岐うどんの過去の情報は、もう集めるすべがないのか？ いえ、そうではありません。讃岐うどんの過去情報の最後に残された“宝の山”、それは、香川県で生まれ育った年配の方々の頭の中にある「記憶」です。

そこで、私たちはまず、戦前、そして戦後から昭和の高度成長期を経て平成の讃岐うどんブームに至るまでの様々な讃岐うどんの現場を体験してきた年配の方々の頭の中にある、「昔の讃岐うどんの日常のシーンの記憶」を、できるだけたくさん集め、その大量の証言をそのまま「証言のデータベース」として、未来に残し伝えていこうと考えました。そしてこのたび、この構想に熱く賛同いただいた株式会社はなまるの大きな支援を得て、企画が具体的に動き始めることになりました。

今、すでにその意義に賛同してくれた地元の多くのプロのライター陣が取材を始め、併せて、讃岐うどんの過去の資料収集も進めています。「讃岐うどん未来遺産プロジェクト」は、人と時間をかけて作り上げていく事業です。ぜひ多くの皆さんが、情報提供者、また情報収集者となって、ご参加、ご協力いただけることを願っています。

「讃岐うどん未来遺産プロジェクト」エグゼクティブ・ディレクター
田尾和俊